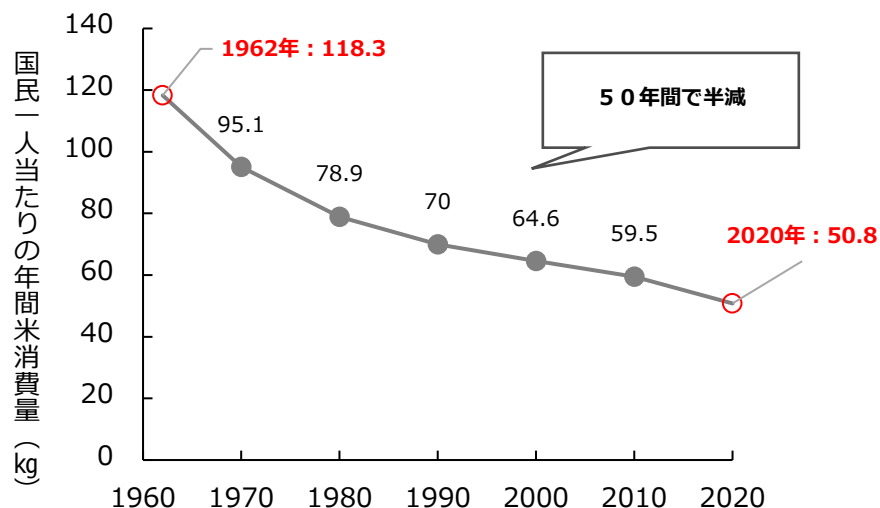


## 【現在の日本のお米の実態】

### ①国民一人・1年あたりのお米消費量はピーク時の半分以下

日本人が1年間に消費するお米の量は1962年の118.3キロをピークに減少傾向にあり、2022年は50.8キロとピークの時と比べると半分以下になっています。

【国民一人当たりの年間米消費量】

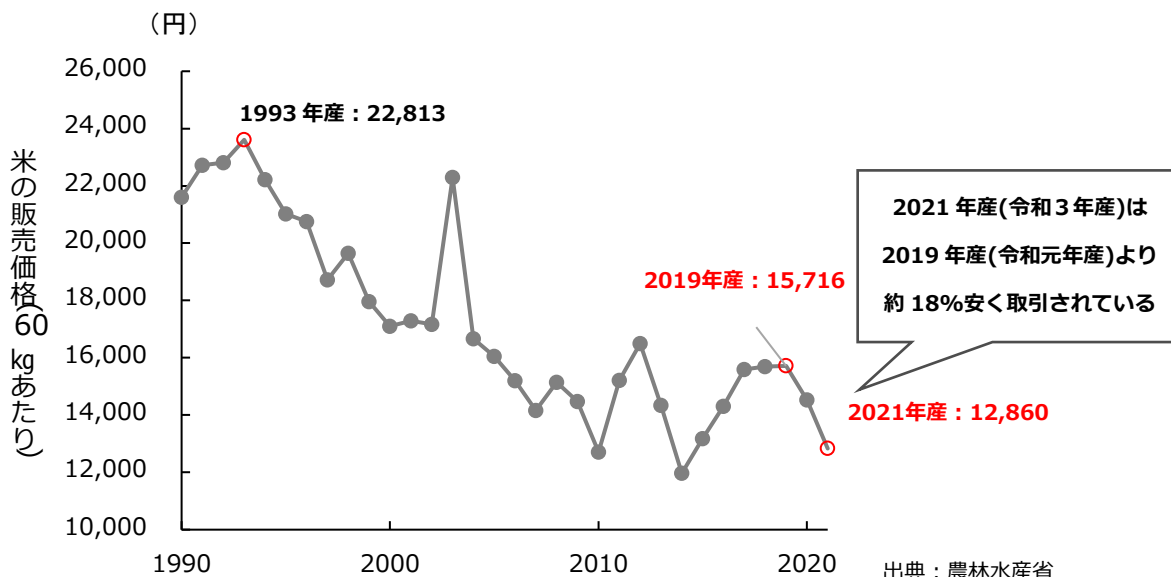


出典：農林水産省

### ②コロナ禍が直撃、米価の下落

米の平均取引価格は2021年産が1俵（60キロ）1万2860円と、新型コロナ禍が本格化する前の19年産に比べ18%安くなっています。バブル崩壊後の1993年産（2万2813円）から長期的な下落傾向にありますが、この2年の下げ幅は非常に大きくなっています。

【米の販売価格の推移】

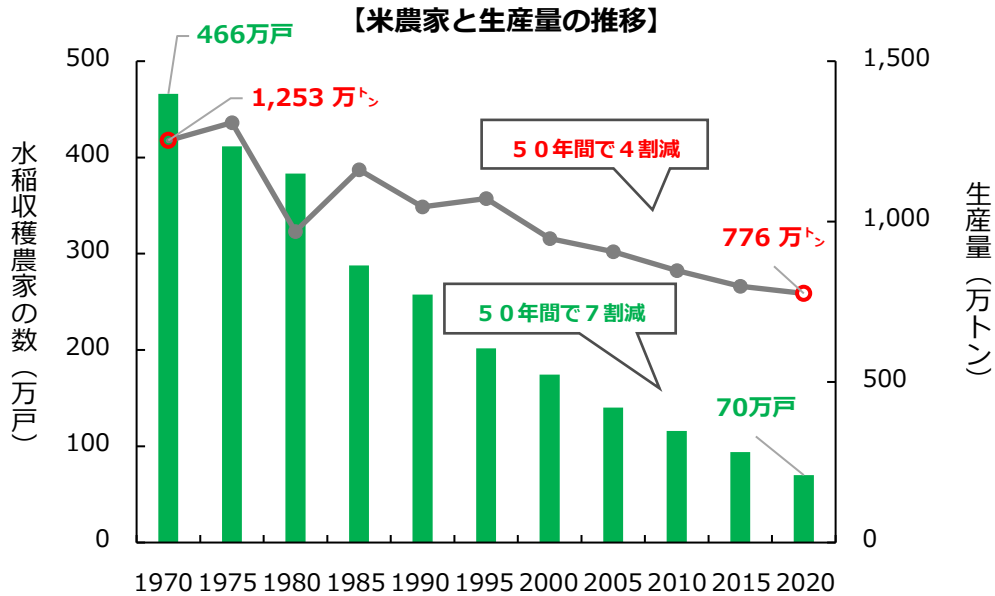


出典：農林水産省

### ③農家数は50年間で7割も減少

水稲収穫農家の数は、1970年の約466万戸から減少し続け、2020年には約70万戸と約50年間で7割まで減っています。米の生産量も1970年には1,253万トンありましたが、2020年には776万トンと約50年で4割以上、減少しています。

さらに、円安やウクライナ情勢による輸入原料の価格上昇で、お米の生産に必要な肥料等の価格が大幅に上昇しており、米農家の経営はますます厳しい環境になっています。このままではお米を作り続けることが難しくなる心配があります。



出典：農林水産省

### ④日本の食料自給率は38パーセント。食料の6割以上を海外からの輸入に依存。

カロリーベースの食料自給率については、1965年度の73%から減り続けて、2021年度では38%まで下がっています。日本人の食料の6割以上を海外からの輸入に頼っていることとなります。お米の自給率はほぼ100%ですが、今まで余るほどあると思われていた米は、今後米農家が減少し続けることで、不足の時代を迎える心配があります。

